

平成24年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

平成25年11月

滝川市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされています。

滝川市教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、平成24年度から執行している「滝川市教育推進計画」に基づき、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、報告書を作成いたしました。

この点検・評価報告書を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進していきたいと考えていますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成25年11月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況	1
(2)条例・規則等の制定、計画等の策定状況について	5

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

(1)点検・評価の視点	6
(2)点検・評価の流れについて	6
(3)評価の方法について	6
(4)点検・評価項目について	7
I-1 確かな学力の育成.....	8
I-2 豊かな人間性の育成.....	9
I-3 健やかな体の育成.....	10
II-4 意欲と指導力のある教職員の育成.....	11
II-5 安全安心な学校づくりの推進.....	12
II-6 市立高等学校の充実.....	13
II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進.....	14
III-8 特別支援教育の推進.....	15
III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実.....	16
IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実.....	17
IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携.....	18
V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進.....	19
V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進.....	20
V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援.....	21
V-15 文化財保護・活用の推進.....	22
V-16 図書館活動の充実.....	23
V-17 博物館活動の充実.....	24
V-18 社会教育施設の整備充実.....	25

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことにより様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

①教育委員会議

14回開催しました。

H24.04.10	報告	①補正予算について ②滝川市温水プール活用事業者候補者選定審査報告について
	議案	議案第1号 滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例 議案第2号 不動産の無償譲渡について
H24.04.26	報告	①滝川第三小学校改築基本設計について ②3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③平成24年度入学式における国旗・国歌の実施状況について ④滝川市温水プールの無償譲渡契約の締結について ⑤滝川市青少年健全育成事業奨励補助金の拡充について
	議案	報告第1号 専決処分について 議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則 議案第3号 滝川市就学指導委員会議委員の選出について 議案第4号 滝川市社会教育審議会委員の委嘱について 議案第5号 滝川市スポーツ推進委員の委嘱について
	その他	①各所管の年間業務計画について ②運動会の日程について
H24.05.29	報告	①教育部補正予算について ②4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議案	選挙第1号 委員長の選挙について 議案第1号 委員長職務代理者の指定について 議案第2号 滝川市少年育成センター指導員の選出について
	その他	①東小学校卒業式の考え方について ②滝川第三小学校改築基本設計について
H24.06.07	報告	財団法人滝川市生涯学習振興会の経営状況について
	議案	議案第1号 滝川市議会に対する意見の送付について

H24.06.29	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①第2回市議会定例会一般質問について ②学校における教職員及び児童生徒の災害報告について ③5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④平成24年度滝川市立小中学校学力向上プランについて ⑤いじめに関する実態調査のアンケート結果について ⑥社会教育施設の利用状況について ⑦学校給食費の未納状況調査について ⑧学校の通学路の安全点検について ⑨公立高等学校配置計画案(平成25年度～平成27年度)について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ①滝川第三小学校改築基本設計について ②北海道人造石油滝川工場資料の「化学遺産」認定調査について
H24.07.26	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①入札執行状況(4月～6月分) ②6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③滝川市教育支援センターのオープンについて ④森のかがく活動センターについて
	議 案	<ul style="list-style-type: none"> 議案第1号 平成25年度に使用する小学校用教科用図書の採択について 議案第2号 平成25年度に使用する中学校用教科用図書の採択について 議案第3号 滝川市教育支援センター条例施行規則 議案第4号 事務局職員の懲戒処分について 議案第5号 学校職員の処分内申について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ①外国語指導助手の採用予定について ②新滝川市活力再生プラン実施結果最終報告書について
H24.08.29	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①教育部補正予算について ②車両損傷事故による損害賠償額の決定について ③開西中学校改築工事に係る工事請負契約の変更について ④7月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ⑤滝川スポーツクラブ「サンテ」のオープンについて ⑥國學院大學箱根駅伝チームの滝川合宿について ⑦社会教育施設の指定管理の公募について
H24.09.26	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①第3回市議会定例会一般質問について ②8月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 滝川市郷土館条例施行規則等の一部を改正する規則
H24.10.24	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①入札執行状況(7月～9月分) ②9月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③学校給食費の未納対策に関する懇談会について

H24.11.26	報 告	①第4回市議会定例会教育部補正予算について ②10月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 公の施設の指定管理者の指定について(滝川市農村環境改善センター・滝川市郷土館分館屯田兵屋) 議案第2号 滝川市立学校教員の任免について
H24.12.27	報 告	①第4回市議会定例会一般質問について ②学校給食費の未納対策に関する懇談会について ③11月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④全国学力学習状況調査結果の概要について ⑤就学指導委員会議の答申について
	議 案	議案第1号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について 議案第2号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第3号 滝川市立学校教員の任免について
H25.01.23	報 告	①入札執行状況(10月～12月) ②12月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
H25.02.19	報 告	①第1回市議会定例会教育部補正予算について ②インフルエンザ様疾患発生について ③1月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について ⑤出願状況について ⑥生徒の進路状況について
	議 案	議案第1号 平成25年度教育行政執行方針について 議案第2号 平成25年度教育予算について 議案第3号 滝川市教育支援センター条例の一部を改正する条例 議案第4号 滝川市コミュニティセンター条例等の一部を改正する条例 議案第5号 滝川市民会館条例及び滝川市郷土館条例の一部を改正する条例 議案第6号 滝川市美術自然史館条例及び滝川市郷土館条例の一部を改正する条例 議案第7号 滝川市森のかがく活動センター条例を廃止する条例 議案第8号 滝川市の公の施設の新十津川町民の利用について
	その他	卒業式について

H25.03.28	報 告	①平成 25 年第 1 回市議会定例会代表質問等について ②インフルエンザ様疾患発生について ③2 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④平成 24 年度卒業式における国旗・国歌の実施状況について ⑤平成 24 年度卒業生進路決定状況について ⑥北海道日本ハムファイターズ滝川実行委員会の設立について ⑦滝川スポーツセンターの耐震診断結果について
	議 案	議案第 1 号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第 2 号 滝川市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正する規程 議案第 3 号 滝川市教育委員会公印規則の一部を改正する規則 議案第 4 号 滝川市森のかがく活動センター条例施行規則を廃止する規則 議案第 5 号 滝川市公民館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 6 号 滝川市郷土館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 7 号 滝川市美術自然史館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 8 号 滝川市こども科学館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第 9 号 滝川市営球場及び滝川市陸上競技場管理規則の一部を改正する規則 議案第 10 号 滝川市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第 11 号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第 12 号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	①入学式について ②辞令交付式

②教育委員協議会

11 回開催しました。

開 催 日	調 査 及 び 研 究 内 容
H24.04.26	・学校の魅力づくり事業について
H24.05.29	・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H24.06.07	・学校の魅力づくり事業に係る採択について
H24.06.29	・サービス上の措置について
H24.07.26	・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H24.08.29	・学校の魅力づくり事業に係る採択について
H24.11.16	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H24.12.27	・平成 25 年度予算要求の概要について ・社会教育施設のあり方について

H25.01.23	<ul style="list-style-type: none"> ・江部乙市民プールのあり方について ・社会教育施設の今後のあり方について ・平成25年度教育部予算の概要について ・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H25.02.08	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校男子生徒への教室内集団暴行事件について
H25.02.19	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校男子生徒への教室内集団暴行事件について ・パークゴルフ場整備の方針について

(2) 条例・規則の制定状況等について

平成24年度に制定又は改正された教育関係条例の数は5件、教育委員会規則の数は11件です。(施行年月日がH24.4.2～H25.4.1のもの)

① 教育関係条例等

題 名	公布年月日	施行年月日
滝川市教育支援センター条例	H24.3.6	H24.8.21
滝川市美術自然史館条例及び滝川市郷土館条例の一部を改正する条例	H25.3.4	H25.4.1
滝川市コミュニティセンター条例等の一部を改正する条例	H25.3.4	H25.4.1
滝川市民会館条例及び滝川市郷土館条例の一部を改正する条例	H25.3.4	H25.4.1
滝川市教育支援センター条例の一部を改正する条例	H25.3.4	H25.4.1

② 教育委員会規則

題 名	公布年月日	施行年月日
滝川市水泳プール条例施行規則の一部を改正する規則	H24.4.19	H24.4.19
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H24.4.26	H24.4.26
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	H24.4.26	H24.4.26
滝川市教育支援センター条例施行規則	H24.7.26	H24.8.21
滝川市郷土館条例施行規則等の一部を改正する規則	H24.9.26	H24.9.26
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1
滝川市公民館条例施行規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1
滝川市郷土館条例施行規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1
滝川市美術自然史館条例施行規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1
滝川市こども科学館条例施行規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1
滝川市営球場及び滝川市陸上競技場管理規則の一部を改正する規則	H25.3.28	H25.4.1

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価のための視点

点検・評価に当たっては、次の視点を持って進めます。

① 市民の視点

市民やサービスの受け手、関係する企業や団体などの公的サービスに対するニーズの多様化や変化を的確に把握し、迅速に対応できているか、お客様の視点に立って仕事のあり方を見直します。

② 職場活性化の視点

職員が自らの仕事のあり方について評価することで、仕事を客観的に見つめ直し、コスト意識やサービス精神の改善につなげるとともに、一人ひとりが組織目標を常に考え、柔軟で効率性を考えた取組を進めます。

(2) 点検・評価の流れについて

①点検・評価シートの作成

事業・事務の成果を分析・検証するために点検・評価シートを作成します。



② 外部評価の実施

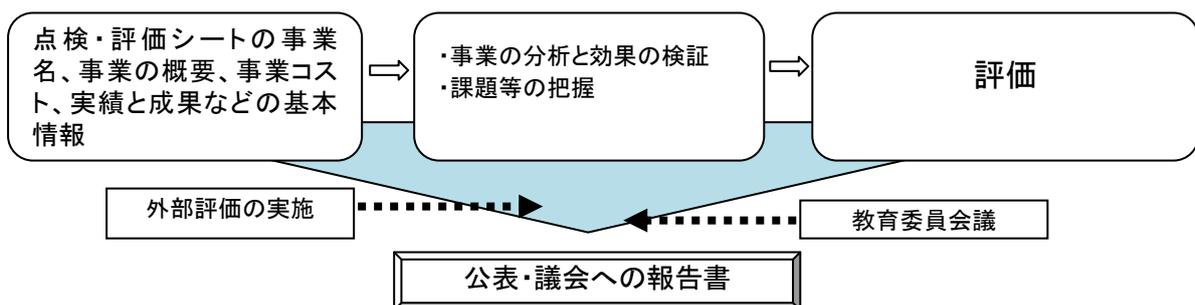


主管課長が作成した点検・評価シートに基づき、学識経験者等と各課とのヒアリングを実施し、内部評価に対して客観的な意見を述べていただきます。

③ 点検・評価の報告書作成

(3) 評価の方法について

①点検・評価のあらまし



②項目別評価

事業の成果を測定するとともに課題を把握し、より良い事業の展開に向けた改善へとつなげていくため、次の2つの視点で評価を行いました。

評価の視点

評価の視点	項目の説明
期待どおりの効果があったか	事業の目的を達成するために行った事業について、効果等を分析・検証した結果、期待する成果があったか。
施策の目的を達成するため、事業の見直し等の余地があるか	上記について、より成果を上げるため、事業の見直しを行う必要があるか。

ランク	内 容
A	期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
B	ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
C	概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である
D	期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

(4) 点検・評価項目について

平成24年度からは「滝川市教育推進計画」に基づき点検・評価を行いました。

施策項目一覧

- I-1 確かな学力の育成
- I-2 豊かな人間性の育成
- I-3 健やかな体の育成
- II-4 意欲と指導力のある教職員の育成
- II-5 安全安心な学校づくりの推進
- II-6 市立高等学校の充実
- II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進
- III-8 特別支援教育の推進
- III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
- IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実
- IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携
- V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
- V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
- V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援
- V-15 文化財保護・活用の推進
- V-16 図書館活動の充実
- V-17 博物館活動の充実
- V-18 社会教育施設の整備充実

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-1	施策名	確かな学力の育成
------	-----	-----	----------

目的	学ぶ意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、自ら学び、自ら考え行動する力を育み、身につけた知識・技能を活用する能力の育成を図ります。そのため児童生徒の学力の実態を把握し、指導方法の改善を図るなど、個に応じたきめ細やかな学習指導を行います。
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進 ③少人数学級実践研究事業(小学校3・4年生35人学級)の推進
事業の実績と分析	<ul style="list-style-type: none"> ①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・習熟度を各学校が取入れ、算数数学の基礎基本の定着を図ることができ指導の成果が見られた。24年度⇒TT指導全体時数7059時間のうち習熟度実施時数2272時間 32%の実施率 配置数 小学校7人 中学校3人 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・「家庭学習の手引き」等、各学校が作成し家庭に配付して活用を図り、家庭での学習時間の増加につながった。 ③小学校3・4年生の35人学級・・・きめ細かい見守りと指導の充実ができ、また教師が子どもと向き合う時間が増え個別の支援に成果があった。24年度⇒東小3年 ④学びサポーターの全校配置・・・困り感のある子の学習支援や発達に課題のある子など個別の指導と支援をはかり、担任と連携により安定した学級運営に成果があった。 24年度⇒18人配置 ⑤外国語指導の充実・・・中学校英語の週時数が増加(週4時間)したことに対応して教師のアシスタント役として2名増員して、英語教育の充実を図った。小学校の英語活動にも積極活用ができた。(24年8月増員)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・複数配置や習熟度配置の際の指導法の一層の充実が必要 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・学校と保護者が連携した取り組みの充実が必要 ③小学校3・4年生の35人学級・・・効果的な35人学級の拡大を図ることが必要 ④学びサポーターの全校配置・・・発達に課題のある子、相談室登校の子への支援策の充実が必要 ⑤外国語指導の充実・・・効果的な活用を進め、成果等の検証を行うことが必要

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学力向上の施策や滝川独自の人的配置の取組などの施策により、基礎基本の定着も見られる結果があった。また少人数学級編制や学びサポーターの人的配置により、平均正答率の上昇と標準偏差指数に成果が出た。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか 少人数学級実践事業の対象学年や学びサポーターの配置など施策の効果的な実施を図りたい。</p>
A	

事業の今後の方向性	<p>来年度も引き続き施策を継続し、学力の向上としての成果が上げるよう事業を推進する。</p> <p> <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 </p>
------------------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-2	施策名	豊かな人間性の育成
------	-----	-----	-----------

目的 事業の	子どもの発達段階に応じた、規範意識や公正な判断力、粘り強くたくましく生きる力、自他の生命を尊重する心、共に助け合って生きることの体得など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、郷土に愛着を持ち、郷土で育ったことに幸せと誇りを持って語ることができる、日本や世界で活躍する子どもを育成します。
主要 事業 今年度の	①道徳教育の推進 ②心の教育推進事業の充実 ③読書活動の充実
事業の 実績と 分析	①道徳教育の推進・・・児童生徒に生命を大切に作る心や思いやりの心、倫理観や規範意識など道徳教育の充実のため、道徳の研究授業や実践発表会を通じて教職員の指導資料の発行を行い、その充実が図れた。24年度⇒5校の研究授業と実践発表の資料集の発行と全教職員への配布 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校など児童生徒の問題行動の実態把握、早期発見・早期対応を図るための体制の充実が図れた。また、学校配置のスクールカウンセラーが教育相談など効果的な活動が出来た。 24年度⇒学校訪問事業年2回実施 スクールカウンセラーの相談件数 小学校554件(23年度494件)・中学校482件(23年度827件) ③読書活動の充実・・・図書館と連携して本に触れる機会を増加させ、学校の朝読書や学級文庫など読書活動の充実に成果があった。 24年度⇒学校と市立図書館が連携して事業(学級文庫・学校図書館環境整備支援)
課題	①道徳教育の推進・・・道徳授業の内容が一層充実するよう実践研究や教材開発の支援を行う。 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校等問題行動の対応にあたり、学校と教育委員会が連携して実態把握や子どもの個別の予防対策など、きめ細かい取り組みが必要である。 ③読書活動の充実・・・学校図書館の資料整備の推進及び司書教諭等との一層の連携を図り、朝読書等本に親しむ環境づくりを推進する必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか いじめは必ず起こりうるが、「いじめはあってはいけないこと」の意識化は、100%になるよう道徳指導や学校における児童生徒の主体的活動を一層支援し、推進しなければならない。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか いじめ実態調査は、アンケートや個別の教育相談を通じて把握しているが、さらに子どもたちからの情報や訴えを的確に得るための相談体制づくりを充実することが必要である。

事業の今後の 方向性	来年度も引き続き実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
---------------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-3	施策名	健やかな体の育成
------	-----	-----	----------

目的	規則正しい、望ましい生活習慣の定着や豊かで健全な食生活の実現、運動や遊びを通じた体力の向上、歯の健康を守るための予防活動など、健康で安全な生活を営むための自己管理能力のある子どもの育成を推進します。
主要事業	①育の推進(バランスの良い栄養摂取と食事マナーを身につけさせる、生産者等を通して地場産品の学習や交流給食の実施) ②歯科など保健指導の推進(むし歯の予防、小学校におけるフッ化物洗口の全校実施)
事業の実績と分析	①食育の推進・・・中学3年生の毎日朝食を食べている割合は、全道平均(90.0%)を上回ったものの、なお1割の生徒が朝食を摂らずに登校していることから、引き続き食育指導による改善が必要である。 滝川産の特産品を知っている割合は、前年度より向上しており、学校給食における生産者を招いた交流給食や、地場産食材を積極的に活用したメニューなど、食育指導に一定の効果があつた。 ②歯科など保健指導の推進・・・24年度より市内全小学校においてフッ化物洗口事業が開始となり、目標としていた全校児童の70%を上回る実施率となった。
課題	①食育の推進・・・食育の推進については、給食の時間や学級活動等における取り組みを促進するとともに子どもに規則正しい生活環境を定着させるため、就学前からの取り組みを関係機関と連携し充実させることが大切である。 ②歯科など保健指導の推進・・・フッ化物洗口事業については、24年度中途からの全小学校での実施のため、効果の検証は現時点では困難であるが、毎年度の歯科検診結果等により、事業効果の検証を進めていく必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があつたか フッ化物洗口事業は全小学校での実施を達成し、実施率も目標を上回ったほか、食育の推進についても概ね期待どおりの効果が得られた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	来年度以降も継続して食育の推進及びフッ化物洗口実施率の向上に取り組み、平成25年度フッ化物洗口実施率の目標を80%とする。また、体力・運動能力の向上を図るため、小・中学生の運動能力の状況を把握し体育指導に活かし体力向上につなげていく。
	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ ^o <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-4	施策名	意欲と指導力のある教職員の育成
------	-----	-----	-----------------

目的	事業の	意欲のある教職員を育て確保するため、各種研修会への参加を促進させるとともに、授業力や指導力など資質が高められる研修会を実施し、教職員が子どもや保護者との信頼関係を深め、より良い教育ができる環境づくりを推進します。
主要事業	今年度の	①指導主事の学校訪問指導の充実 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上 ③教職員研修・研究の充実
事業の実績と分析		①指導主事の学校訪問指導の充実・・・指導主事の学校訪問指導の充実・・・指導主事が学校の経営指導や授業実践についての助言を行い、学校教育の充実と教師の授業力の向上が図れた。 24年度⇒指導主事の学校訪問回数141回 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・児童生徒の学習への興味関心を高めるため、ICTを活用した授業の充実を図るため、小学校2校のモデル校を中心にして取り組んでいる。 24年度⇒滝川第三小(タブレット端末)、江部乙小(デジタル教科書とICT機器) ③教職員研修・研究の充実・・・教職員が、専門職員として高い指導力と技能を身に付けるため、市独自の研修会を企画するとともに、各機関が開催する講座・研修への参加を促進した。 24年度⇒小中教職員の研修参加延人数240人(空知教育センター175人・道研等65人) 24年度⇒若手教員の授業力向上のため「パワーアップ研修会」を年2回実施
課題		①指導主事の学校訪問指導の充実・・・校内研修会への指導主事の参加について検討が必要 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・基盤となるICT機器の整備を推進することが必要 ③教職員研修・研究の充実・・・本市の研修会では、参加者の増と時期など効果的な開催が必要

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ICT機器の活用については、特に小学校のモデル校では、教職員の活用が進んでいるため、子どもの興味関心に効果は出ている。これを市内全体に広がるよう推進したい。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	ICT機器の整備を積極的に進め、教職員の活用が促進するよう努めるとともに、研修会の企画と参加の促進をさらに充実したい。 □拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ □検証 ■継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-5	施策名	安全安心な学校づくりの推進
------	-----	-----	---------------

目的	学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、災害時には、地域の避難場所としての役割もあることから、子どもたちの安全を守り、良好な教育環境の確保を図るとともに、安全な避難場所とするため、施設整備方針を策定し、耐震化や改築・大規模改修等を計画的、効率的に進めます。
主要事業	①小・中学校改築等施設整備の推進(開西中学校改築事業、滝川第三小学校改築実施設計、東小学校トイレ改修事業) 事業費527,875千円 ②学校給食施設について親子方式による施設整備の推進
事業の実績と分析	①児童生徒の安全を守り良好な教育環境の確保を図るため学校施設の耐震化は責務であり、耐震補強工事や改修を行うことは急務である。改築事業の実施により安全で安心な学校施設の整備が図られた。 ②改築事業やトイレ改修工事の実施により、快適なトイレの整備が図られた。 ③開西中学校及び滝川第三小学校の改築事業、並びに滝川第二小学校・西小学校の耐震補強工事・トイレ改修工事については、平成25年度施工予定の工事を前倒しすることができた。 ④ICタグにより登下校情報の確認ができるため、利用者は新1年生を中心に確実に増加している。
課題	①耐震化が必要な学校は、改築工事中の開西中学校を含めて5校有り、児童生徒の安全性の確保からも、早期の耐震化が必要であり、関係部局との協議検討が必要である。 ②児童見守りシステムについては、利用者が増加する一方で、4年生以降も利用できるような要望が多いことから、新年度に向けて、利用学年の順次拡大に向けた予算確保が必要である。 ③給食設備の整備・改修については、予算の確保に努め計画的に進めていく。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 計画どおり改築事業及びトイレ改修工事を実施し、安全安心な学校施設の整備を進めることができたが、東小の調理室床改修工事は予算の確保ができず実施できなかった。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 児童生徒の安全性の確保から、学校施設の早期の耐震化及び給食施設の整備が必要であり、財源を確保しながら計画的に進めていく。

事業の今後の方向性	平成22年2月に策定した「滝川市小・中学校施設整備方針」及び平成23年12月に策定した「滝川市学校給食施設整備方針」に基づき、計画的・効率的に耐震化工事や改築・大規模改修と学校給食施設の整備を行い、平成27年度までに全小中学校施設の耐震化を完了する。 児童見守りシステムについては、引き続き対象学年の拡大に向けて協議を進める。
	■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 □継続

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-6	施策名	市立高等学校の充実
------	-----	-----	-----------

目的 事業的	「文武両道」の精神のもと、規律を重んじる校風を高め、地域の期待に応える高校教育を推進するとともに、時代の変化に対応した市立高校の将来を展望したビジョンを策定し、地域や日本、世界に貢献する人材の育成を図ります。
主要 事業 今年度の	<ul style="list-style-type: none"> ①平成25年度からの新教育課程の編成 ②キャリア教育の充実 ③英語教育及び国際理解教育の推進 ④高大連携の拡充
事業の実績と分析	<ul style="list-style-type: none"> ①成25年度からの新教育課程の編成…編成を完了[学習活動と部活動等の特別活動との相乗効果が上げられるよう週30単位時間で編成した。また、普通科においてコース制から文型・理型の2類型に変更しており、進学実績の向上が期待される。] ②キャリア教育の充実…3年間を見通した計画的なキャリア教育の実施、ガイダンス機能の強化・充実、上級学校の体験学習やインターンシップの参加・実施等[国公立大学への合格者数や就職決定率に効果が反映されている。] ③英語教育及び国際理解教育の推進…文部科学省の研究指定、全ての授業をオールイングリッシュで実施、言語活動の積極的な導入、外国語指導助手(ALT)の配置、米国ロングメドー高校への短期留学の実施等[GTECの校内平均スコア(472.2)や実用英語検定の合格者数(2級22名、準2級100名)などで、生徒の英語力の伸長状況を定期的に把握している。] ④高大連携の拡充…國學院大學北海道短期大学部の他、小樽商科大学等の道内大学との連携を拡大・強化[キャリア教育及び英語教育等の充実に寄与している。]
課題	①施設・設備や教材・教具等の改修・整備が滞っているために教育活動等に支障を生じている。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか 国立大学への合格者数が7年連続で2桁になるとともに、就職決定率が3年連続で100%になっているほか、英語教育におけるGTECの成績・結果が2年連続で全国平均スコアを上回るなど、期待どおりの効果を上げていると考える。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後ともこれまで同様な施策効果を上げていくためには、施設・設備や教材・教具等の改修・整備を早急かつ計画的に進める必要がある。</p>
A	

事業の今後の方向性	<p>市立高等学校は、学習指導と生徒指導の両面について充実した教育活動を行っており、進学・就職の進路結果や部活動の成績結果等に顕著な成果が見られる。選ばれる高校をめざし、入学者定員を充足するためにも、施設・設備や教材・教具等の改修・整備など、所与の手当てを適切に講じながら、事業の継続・充実に図っていくことが望ましいと考える。</p> <p> <input type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>縮小・統廃合 <input type="checkbox"/>質的向上 <input type="checkbox"/>スピードアップ <input type="checkbox"/>検証 <input checked="" type="checkbox"/>継続 </p>
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-7	施策名	特色と魅力のある学校づくりの推進
------	-----	-----	------------------

目的 事業の	学校独自の創意工夫に満ちた教育活動を推進し、特色や魅力ある学校づくりを進めます。
主要 事業 今年度の	①学校の魅力づくりの推進
事業の実績と分析	①学校の魅力づくり事業の推進・・・学校の教職員や児童生徒による創意工夫のある教育活動に対して、補助金を交付して、学校の特色や子どもたちに愛校心が育つよう推進した。 24年度⇒魅力づくり事業予算100万円と教育寄付を活用して、各校の活動を支援した。 (東小:音楽活動、江部乙中:地元産品販売活動、第三小:ICT活用授業)
課題	①学校の魅力づくり事業の推進・・・各学校の魅力づくり事業の実施内容のPRを積極的に行われるよう点検するとともに、学校では、保護者からの評価項目の対象とするよう取り組む必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 各校では、プレゼンして事業認定うける仕組みにしたことから、教職員間の協調性や子どもの要望に応える企画・立案が多くみられた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 事業期間は、当初3年間の第1次計画としたことから、この間の評価検証が必要である。

事業の今後の方向性	教職員や児童生徒の創意工夫した特色ある教育活動を支援し事業の充実を図りたい。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-8	施策名	特別支援教育の推進
------	-----	-----	-----------

事業の目的	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施します。
主要事業 今年度の	①個に応じた支援の充実 ②通級指導教室の充実
事業の実績と分析	①個に応じた支援の充実・・・個別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育支援を計画的に実施し、その記録を保護者の委任を受けて作成し、幼児期から学業期までの接続を図ることが出来た。また、障がいのある子等の支援として「教育支援員」や「学びサポーター」を配置して、安定した学校生活を送ることの支援に成果があった。 24年度⇒教育支援員5名配置 ②通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションに課題のある児童生徒の特別な教育を行う教室として、市内3校に拠点として開設し、自立支援の充実を図った。 24年度⇒新規として明苑中学校に開設 通級者第二小14名・第三小36名・明苑中・12名)
課題	①個に応じた支援の充実・・・「個別の教育支援計画」の作成の目的や活用について、保護者に説明し、さらに広める必要がある。また、すべての教員が本計画の重要性について研修する機会を確保しなければならない。 ②通級指導教室の充実・・・通級設置校に通う児童生徒の負担軽減から、設置条件が満たせば増設が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校生活の支援や通常学級との交流学习など、子どもの教育的ニーズの応えることが出来た。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 現状の事業の内容の充実を図りたい。

事業の今後の方向性	個別の支援のいっそうの充実を図り、事業を推進したい。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-9	施策名	不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
------	-----	-----	------------------------

目的 事業の	不登校や学校になじめない児童生徒の学校・学級復帰を実現するため、登校への意欲化や基本的な生活習慣の見直しなどの支援を行い、自立心を持たせ、自信の回復を目指す指導や教育相談の充実を図ります。
主要 事業 今年度の	①適応指導教室運営の充実 ②教育相談体制の充実
事業の 実績と 分析	①適応指導教室の充実・・・平成24年8月教育支援センターに教室を移転し、個別の実態に即した学習指導の充実が図れた。また、支援センターの機能や周辺環境を活かした体育活動・調理活動等多様な体験活動が実施ができ、活動の充実が図れた。 ②教育相談体制の充実・・・支援センター内に専用の相談室を設置したことにより、関係する保護者との教育相談や関係学校の担任との打ち合わせなど効果的に活用できた。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携した教育相談も可能となり、きめ細やかな相談体制の充実が図れた。
課題	①児童生徒の不登校者数のうち、適応指導教室への通級割合は10%以下であり、不登校の多くは自宅に引きこもる状態である。このことから教育支援課と学校が連携し、当該児童生徒への効果的な対応が課題である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 適応指導教室の移転新設により、個別の指導と支援が充実した。学校復帰については、完全には実現できなかったものの、学校行事やテストの際の登校ができるようになり、自立に向けてのきっかけとして効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 不登校児童生徒の未然防止のための、学校で初期対応するマンパワーの強化について見直したい。

事業の今後 の方向性	平成25年度は、新十津川町の児童生徒の受け入れを開始しており、不登校対策では、近隣市町と連携した施策を積極的に展開し、指導支援内容の充実を目指す。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
---------------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-10	施策名	地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実
-------------	-------	------------	-------------------------

目的	学校、家庭、地域が協力して子どもを育てる体制を整えるため、学校の教育活動における地域との関わりを深めるとともに、家庭や地域での生活を円満で健全に過ごすことができるよう支援します。
主要事業	①学校支援地域本部事業の充実
事業の実績と分析	①学校支援地域本部事業の充実・・・学校の教育活動に、地域人材がボランティアとして参画し、技術や技能を提供していただき、そのことを通じて教職員や子どもたちとの絆が深まり、効果的な学校を展開できた。 24年度→水泳授業、スキー授業、夏休み学習相談、田植え等農業体験等
課題	①学校支援地域本部事業・・・ボランティア人材の確保を確実なものにするため、個人や団体とのつながりを十分に図る必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校要望と人材確保が合致して事業が行われ、地域人材と教職員が協力して、子どもの育みを支える活動が出来た。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。
A	

事業の今後の方向性	地域人材の確保に努め、学校の教育活動の充実を図りたい。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-11	施策名	子どもに関わる施策や活動との連携
------	-------	-----	------------------

目的	事業の	幼児期の保育に関わる関係機関や子育て支援施策を実施している本市の行政部門と連携を深め、発達状況の実態把握と情報共有を緊密に行い、子どもやその保護者への適切な支援を推進します。
主要事業	今年度の	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進 ②子育て支援施策との連携
事業の実績と分析		①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・幼児の小学校への円滑な接続と個別の情報交換の機会として「小学校入学に係る引き継ぎ会」を実施し、連携を深めた。 ②子育て支援施策との連携・・・子どもの養育や発達支援に関わる業務を行う、市長部局との連携を深め、個別のケースに応じた支援を行った。
課題		①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・発達に課題のある子の情報交換と合わせて支援内容についても協議できる機会の確保が必要である。 ②子育て支援施策との連携・・・個別ケース会議や情報交換を通じて、連携の充実が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 個別の子どもとその家庭への支援や助言を、学校と市の関係部局が連携して取り組むことで、家庭環境や学校生活に安定を取り戻したケースがあり、効果を上げている。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	幼稚園・保育所等との連携を深める取組みを図りたい。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-12	施策名	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
------	------	-----	----------------------------

目的	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、成果を生かした生涯学習を推進するため、生涯学習情報をインターネット等を通じて発信するとともに、学びの仲間づくりや成果発表の機会の拡充など、子どもから高齢者まで生涯各期の生き生きとした生涯学習活動を推進します。
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ①青年交流プラザを中心とした青年活動の活性化 ②福寿大学の自治会を主体とした学生の積極的な事業参加
事業の実績と分析	<ul style="list-style-type: none"> ①青年交流プラザ事業を通じて交流を持った青年たちが、互いの活動に協力する事例がみられるようになり、また、青年活動発表会「Takikawaミーティングブルー2013」を通じ、市民が青年たちの活動を広く知り、新たなつながりができた。 ②成人式はこれまで行政主導で行っていたものを、青年たちで構成する実行委員会で開催。青年団体からの選出委員のほか、新成人及び昨年度の新成人で構成した実行委員会によつての運営や進行、そして、新成人の母親からの手紙披露や交流会などの新たな企画が生まれ、柔軟な内容でまさに青年が主役となる成人式となった。 ③福寿大学は、大学祭や研修旅行など、自治会が主体的に事業の企画・準備に関わることや、事業内容を現代社会の課題解決につながる事項を多く盛り込んだことで満足度が高くなった。 ④ツイッターやフェイスブックなどのインターネットツールによって、青年交流プラザや福寿大学などさまざまな社会教育事業を広く周知することができ、市民の参加を促すことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①青年活動については、青年交流プラザの支援団体である「青年交流プラザ振興会」の会員数は37企業であり、今後、支援体制の強化を図るためにも、新社会人のための交流会などを実施し、会員増加に取り組む。 ②福寿大学については、現在の授業で満足している学生が多いが、新たなシルバー世代を獲得するためには授業システムの見直しが必要である。福寿大学を発展させるのか、福寿大学をそのまま存続し、新たにシルバー世代向けの学習活動の機会を提供するのか、市民の意向調査などを実施し、今後の高齢者学習についての施策をまとめたい。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか 青年交流プラザを中心とした情報提供や事業実施により、青年間の情報交換・交流が飛躍的に進み、期待どおりの成果があった。福寿大学は、学生の経験や知恵を生かす活動ができ、期待どおりの成果があった。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 各年代において、「仲間づくり」の拡充を目指し、継続して事業を進める。</p>
A	

事業の今後の方向性	<p>生涯各期の生涯学習に対し、市民ひとりひとりが持つ経験や知恵、ネットワークをさらに生かし、仲間づくりを支援する事業を今後も継続して取り組んでいく。</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 </p>
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-13	施策名	健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
------	------	-----	--------------------

事業の目的	生涯にわたり健康であるため、子どものころから心と体を養うスポーツに親しむとともに、スポーツ大会を通じて人々が集まり交流できる環境づくりを推進します。
主要事業 今年度の	①「たきかわコスモスマラソン」の開催による市民参加者数の拡大及び市民の体力向上を図る ②市民の体力向上を目指すため、各競技団体及び市民によるスポーツ施設の利用拡大を図る ③競技人口の拡大を図るため、全道・全国の大会の誘致を行う
事業の実績と分析	①「たきかわコスモスマラソン」は、インターネットのスポーツ大会専用サイトで選手受付を行うようになったことで、年々参加者が増加してきたとともに、市民マラソンとしての知名度もあがってきた。特に40歳～59歳の参加者が2009年と比較して1.9倍と増加し、全体の1/3を占める状況となった。 ②スポーツ施設の利用状況は、施設の見直しなどにより、本町体育館の廃止(▲3,146人)や温水プールの民間移管(▲28,527人)のため、減少となった。 ③全国・全道大会開催数は、毎年開催している全日本少年野球春季北海道予選会や滝川陸上競技選手権大会、たきかわコスモスマラソンなどのほか、北海道還暦軟式野球選手権大会や国体北海道予選バドミントン大会など24大会を開催した。
課題	①「たきかわコスモスマラソン」は、次年度から国道12号を活用した新コースで大会を開催するため、交通整理やケガ・事故などに対応するボランティアはこれまでの約2倍の500人以上を必要とする。新コースでのスムーズな運営や、ボランティアの確保、ランナーの受け入れ態勢などこれまで以上の事前準備が必要。 ②各競技及び市民によるスポーツ施設の利用拡大を図るため、施設の改修計画が必要。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか</p> <p>コスモスマラソンは、前年度より359人増の1,721人と過去最高の参加者数となり、市民参加者数も増加してきた。コスモスマラソンを通じて、多くの方が滝川市に集い交流しており、期待どおりの効果があった。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか</p> <p>今後、次年度新コースでの大会を予定しており、ランナーの安全確保を基本に、市民マラソンとして定着するよう大会を成長させながら継続していく。</p>
A	

事業の今後の方向性	<p>新コースでのコスモスマラソンが定着するよう、一般財団法人滝川市体育協会をはじめとする関係団体との連携を強化し、また、滝川スポーツクラブの利用者へマラソン参加PRをするなど、市民参加の増加方法を検討し、市民の体力向上を目指す。</p> <p>■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 ■継続</p>
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-14	施策名	文化・芸術活動の創造・育成支援
------	------	-----	-----------------

目的	市民による優れた芸術鑑賞事業や個性的な文化創造事業のほか、これらをけん引する人材育成事業を支援し、地域の文化力を原動力としたまちづくりを目指します。
主要事業	①地域文化活動を支える市民との協働による鑑賞事業などの実施 ②学校を舞台とした芸術鑑賞や体験などのアウトリーチ事業の拡充
事業の実績と分析	①音楽祭は、中・高校生の参加によるジュニアブラスオーケストラの活躍が光った。特に大序曲「1812」では、舞台と客席からの演奏があり、演出的にも見ごたえのあるものだった。市民文化祭は、展示部門では絵手紙やフラワーアレンジが体験できたり、喫茶コーナーを新たに設置したり、来場者が楽しむことができる工夫をした。 ②文化センターにおいて、市民との協働によりさまざまな補助金を活用し3本の舞台を行った。ヘルパーズでは、出演者が事前に高齢者施設の訪問やラジオでのPRをしたり、海流座では、演劇ワークショップに参加した市民が同じ舞台に出演するなど、役者と市民とが触れ合う機会を多くもてた。 ③「平成24年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業」補助を活用し、たきかわホールや公共施設ロビー、太郎吉蔵などで演劇・コンサート・落語など10の事業を展開した。市民の落語愛好家たちの発表の場となった「市民寄席」や、美術自然史館で開催した墨絵師・杉吉貢制作による「白い森・黒い森」を舞台に行われたさまざまなアートパフォーマンスなど、滝川市の新たな文化芸術活動を展開するきっかけとなった。 ④芸術家の訪問やワークショップを実施した学校は、中学校3校と高校1校の4校であった。NHK子ども音楽クラブは、北海道で唯一実施された学校であったり、東京ブラススタイル・大嶋康司(ヤッシー/ブラック・ボトム・ブラス・バンド)のワークショップを受けた生徒は、本番の舞台でも一緒に演奏するなど、生徒にとって貴重な体験となった。
課題	①文化祭においては、展示と芸能の開催日を分けて実施しており、何度も足を運ばなくてはならないことが、全体の盛り上がりを欠けさせている一因でもあり、同日ですべてを見ることのできる同日開催へ変更する。 ②主催者や行政からのPRだけでは、すみずみまで情報が行き届かないことから、SNSのソーシャルボタン(フェイスブックの「いいね!」やツイッターの「リツイートする」など)を押し、情報を拡散してくれる支援者を募集し、ネット上の情報提供を充実させる。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 特徴のある文化芸術活動や、次の活動につながる新たな取り組みができたことは期待どおりであったが、入場者が伸び悩んだことは反省。芸術家の学校訪問は、生徒の反応が極めてよく、効果があった。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 優れた鑑賞事業の実施は継続し、多くの市民に鑑賞いただけるよう工夫をする。芸術家の学校訪問は継続して実施する。

事業の今後の方向性	地方都市でも質の高い文化・芸術活動に触れられる機会の提供を継続していく。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-15	施策名	文化財の保護・活用の推進
------	------	-----	--------------

目的 事業の	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組みます。
主要事業 今年度の	①日本化学会「日本化学遺産」への北海道人造石油株式会社滝川工場認定に対する資料提供
事業の実績と分析	<p>①滝川の戦中、戦後の歴史で重要な役割を果たした北海道人造石油株式会社滝川工場資料を、公益社団法人日本化学会「化学遺産」の認定にむけ資料提供等を行った結果、平成25年3月に北海道にある資料、そして自治体で所有する資料としては初めて認定された。</p> <p>②化学遺産の認定により、市文化財の指定に向けて動き始めるとともに、平成25年度には、人石をテーマとした特別展の開催や、広報たきかわでの特集紹介などが予定されるなど、市民に貴重な郷土資料として再認識してもらう効果があった。</p> <p>③人石は軍需産業の性格から、全容が明らかになっていないこともあり、「化学遺産」認定をきっかけに、関連資料や情報の提供が期待される。</p> <p>④華月館は、三浦華園が独自にパンフレットを作成し、PRをしたことが入館者増につながった。</p>
課題	<p>①民間が所有する建物を今後文化財指定を検討するうえで、所有者の了承を得るための条件整理(補修の考え方など)を行い、市内に残る価値のある建物の保存を進める。</p> <p>②郷土史を語る人材が高齢化し、文化財と市民を結ぶ「語り部」の育成が必要である。整備された文化財と育成した語り部が、教育活動に生かされるようハードとソフトの整備を組み立てていく。</p>

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか 北海道にある資料、そして自治体で所有する資料としては初めて認定されたこともあり、注目度もかなり高く期待どおりの効果があった。</p>
A	<p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も郷土資料に光をあて、その価値を評価する取り組みを進めていく。</p>

事業の今後の方向性	<p>人石資料の市指定文化財の決定にむけて作業を進めていくとともに、今後も埋もれた「まちの財産」に光をあて、文化財として保存・普及していく。</p> <p><input type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>縮小・統廃合 <input type="checkbox"/>質的向上 <input type="checkbox"/>スピードアップ <input type="checkbox"/>検証 <input checked="" type="checkbox"/>継続</p>
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-16	施策名	図書館活動の充実
------	------	-----	----------

目的 事業の	生涯学習の拠点として、市民の暮らしに役立つ図書館を目指し、充実した蔵書の構築に取り組むとともに、子どもの読書週間の定着を推進するため、学校における読書活動の環境づくりを支援します。
主要 事業 今年度の	①学習拠点としての図書館の充実 ②子ども読書活動の推進
事業の実績と分析	①入館者、貸出冊数、回転率は、旧図書館と比較して大きく伸びた。特に、来館者数は移転前の約2.5倍となり、移転前ではほとんど来館していなかった10代や、子どもを連れた20～30代の子育て世代が増えるなど利用者の幅が広がった。これは、移転によるアクセス改善や蔵書の充実、企画展示・イベントなどのソフト事業実施により「便利で役立つ立ち寄り型図書館」が認知・評価されたものと考えられる。 ②読書アルバムについては、目標を下回ったものの、移転前と比較して1.6倍となった。また、図書館学級文庫で、1万6千冊を超える図書の貸出を行い、児童・生徒の読書機会が増加した。
課題	①当館の市民1人当たり蔵書冊数は、全国同規模の市立図書館の8割半ばに留まっている。蔵書は図書館の最も重要な基盤であり、入館者数や貸出冊数、回転率の維持・向上には蔵書の充実が不可欠なことから、今後も継続的な取り組みが必要である。 ②子どもの読書活動の推進については、学校との連携をより密にしながら、学校・図書館両面の事業展開を図る必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 旧図書館及び前年度と比較すると、数値は伸びており、立ち寄り型図書館としての評価は定着してきたものと考えられる。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 地域の情報拠点として、図書館の基本的な資産である蔵書の充実を図りながら、利用者視点に立った各種サービス強化とソフト事業を展開する必要がある。

事業の今後の方向性	立ち寄り型の便利で使いやすい図書館として、図書館が果たすべき役割を常に検証しつつ、利用者ニーズに応えた蔵書の充実と、より親しまれる地域の情報拠点を目指す。 □拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 ■継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-17	施策名	博物館活動の充実
------	------	-----	----------

目的 事業の	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキカワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。
主要事業 今年度の	①特別展事業の実施 「たきかわARTガーデン」「カメが見た太古の世界」「白い森と黒い森」「Youngアーティスト巡回展」 事業費 1,404千円 ②普及事業の実施 特別展の関連事業、「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」 事業費1,137千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援 ④北辰の森・桜並木整備事業の推進
事業の実績と分析	①年間入館者数は減少しているが、企画展での入館者数は前年比1,608人の増であった。特に入館者が少ない冬季に開催した企画展(12/15-1/27)の「白い森 黒い森」は市民参加型の関連事業効果で冬季間(12月~2月)は前年比708人の増であった。市民と一緒にやり遂げた特別展となり、効果的な企画展であった。 今後も、市民ニーズを吸い上げ、地域住民との展示会を企画するなど、市民との連携をさらに密にした事業を行いたい。 ②市内の小中学生の入場者数は減ったものの、市外を含めた学校生徒受入数が増えたのはB&Gのカヌーと合わせた体験型施設としての受入が認知されてきた効果と考える。少子化傾向が進む中、札幌圏や旭川圏のこども達も取り込んだ入場者増を図っていく。 ③市内の小中学生に関しては、先生に施設を知ってもらうことが重要と考え、11月のコスモスターの週を「教員のための博物館の週」と位置付け、先生方に来てもらい施設PRを行う。
課題	①昭和61年の開館以来大きなリニューアルを実施しておらず、常設展示室を含めたりリニューアルが必要 ②情報発信の手段である、魅力あるホームページの充実 ③身近な場所で芸術に触れ、故郷の自然や歴史を学ぶ場として、地域の学校との連携強化

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展や普及事業の来館(参加)者数は増えており、ソフトの面では事業効果があった。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 入館者増を目指す観点から、リピーターとなる年間パスポート購入者の利便性を図る意味で、平成25年度からは、郷土館も対象施設に加え、パスの購入時から1年間の有効期限とするなど、何度でも来館しやすい環境と条件を整えた。

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキカワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、今後も「月イチリカ室」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③ふるさと滝川を「記憶」し続ける方策として「岩橋英遠芸術の振興」「タキカワカイギウを核とした滝川海の再現」「市民ギャラリーの新設」などリニューアルに向けた検討を進めていく。 ■拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ ■検証 □継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-18	施策名	社会教育施設の整備充実
------	------	-----	-------------

目的	市民の社会教育活動を支える施設を整備するとともに、今後の人口規模や利用状況に照らし合わせた社会教育施設の配置計画を策定し、継続した社会教育活動が進められる環境づくりに取り組みます。
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ①教育支援センターの開設と文京台ソフトボール場の設置 ②温水プールの民間への無償譲渡
事業の実績と分析	<ul style="list-style-type: none"> ①社会教育施設の耐震化についてはスポーツセンターの耐震調査を実施し、該当施設すべての調査が終了した。また、総合福祉センターについては、耐震化と大規模改修にかかる経費を勘案し、平成26年3月末をもつての閉館を決めた。 ②旧北海道高等技術専門学院を教育支援センターとして開設するとともに、隣接する土地に空知川河川敷にあったソフトボール場を移設し、文京台ソフトボール場(2面)を整備するなど、施設充実に取り組むことができた。 ③市では初となる民間への公共施設(温水プール)の無償譲渡を行い、H24年9月には新たな健康増進施設が誕生した。プール3コースを市民用として借り上げ、これまで同様、市民が年間を通じて水泳活動ができる環境を確保することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①文化センター及び青年体育センター・スポーツセンターの耐震・大規模改修について早期に計画を策定し、作業を進めていく。 ②今後の生涯学習をどのように進めていくのか、市民の意向調査を実施し、求められる生涯学習環境(ハード・ソフト)を施策としてまとめ、施設整備と合わせ計画的に事業を展開していく。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか 新たに設置した教育支援センター、無償譲渡し民間活力をもって魅力ある施設に生まれ変わった温水プールについては、それぞれの機能を強化したものであり、期待どおりの効果があった。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要あるか 市が計画策定を進めている公共施設マネジメント計画の方向をみながら、必要な社会教育施設の役割・機能を維持できる施設整備を今後も進めていく。</p>
B	

事業の今後の方向性	<p>体育施設では青年体育センター・スポーツセンター、文化施設では、文化センターを耐震化する必要がある、その対応について、社会教育審議会の意見をふまえ作業スケジュールを明確にしていく。</p> <p> <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input checked="" type="checkbox"/> スピートアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input type="checkbox"/> 継続 </p>
------------------	---